

## グローバル・サービスラーニング A 実施報告

経営学部は、国際化推進の一環として2015年度から新たにグローバル・サービスラーニング（実習関連科目）を設置し、海外での社会奉仕活動を通じて自らの社会的役割について考え、国際社会を取り巻く様々な課題を解決する為に必要な学生たちの資質・能力の向上に取り組んでいます。2018年度春学期はインドネシア共和国のバリ島にて、実習を行いました。

<2018年度春学期グローバル・サービスラーニング A>

実習期間：2018年8月14日～8月28日（14日間）

実習先：インドネシア共和国（バリ島）

### スケジュール

8月14日	日本出国、現地へ到着
8月15日	火葬儀礼の為の服を購入
8月16日	火葬儀礼
8月17日	インドネシア独立記念日・火葬儀礼・タナロット
8月18日	モンキーフォレスト
8月19日	成人儀礼
8月20日	孤児院訪問
8月21日	バリ島北部へ旅行
8月22日	ケチャ鑑賞
8月23日	バリの音楽を学ぶ
8月24日	ビーチへ
8月25日	孤児院訪問2日目、踊りと音楽を鑑賞
8月26日	ウヅド観光・昼食の手作り
8月27日	地元の方々へ夜ごはんをおもてなし
8月28日	クタビーチ

～ 主なアクティビティ（抜粋） ～

- 伝統儀礼への参加
- バリの楽器の演奏を体験
- 孤児院にて、子供たちと遊ぶ
- 買い出し・ごはん作り

以下、実習参加者の感想を一部ご紹介します。

- この活動を通して学んだこと・今後取り組んでみたいこと
  - この活動を通して学んだことは、異文化や外国について理解することの難しさです。また、現地の人と会話することが一番その国のことを理解できると感じたので、今後は自分の興味のある国の言語をたくさん勉強したいと思いました。
  
- プログラムを通しての感想
  - バリの町の人はみんな温かく、日本から来た私たちと非常に積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれた。観光を主要な財源としているバリの人々にとって、それは生きる知恵であり戦略的一面もあるかもしれないが、人と接することは良いことだと再確認できた。
  - 異文化を理解することの難しさを知る良いきっかけになりました。また、初めて外国の人から直接日本や日本人の印象、日本人に対する考えを聞いて、学ぶことがたくさんありました。色々考えさせられる良いきっかけになりました。
  - 人とのコミュニケーションの重要性を感じた。バリでは、普段から他人と関わるのが重要で、仕事やスマホより、人との会話を第一に考える。日本だと自分が第一で、他の人とのかわりが優先されない場面が多いように感じられた。
  - 火葬儀礼への参加が今回最も印象に残りました。土の中から遺骨を掘り起こすところから自分たちの手で行っていることに感激しました。棺作りから全て自分たちで行い、数日間に渡る儀礼の数々も行っている様子を見て、現代の日本ではあまり感じる事のない地域の繋がりを感ずることができました。
  - たった2週間という短い期間でしたが、多くのことを学びました。インドネシアの人々はみんなとても優しいです。日本人とは違い、インドネシアの人々は近隣の人や他人に対して気遣いができます。それはきっと儀礼などを行う際、村などのまとまりでやるので、他者との結びつきが強いのだと思います。インドネシアの言葉も文化も知らないような自分が儀礼に参加しても笑顔でむかえてくれて、色々教えてくださいました。本当にこのプログラムに参加して良かったです。